

念願

何を思ふといふでもなく
ぼんやり坐つてゐる机の前
草編みのすだれの蔭へ
不意に訪なふ蝉一つ

挨拶もなく 見みえもなく

忽ち 高々と歌ひ出す 描き出す

天来の妙音 ゆかしい心象

可愛い奴 神々しい奴

蝉 蝉よ

嗚呼お前のやうに歌ひたい

巧まずに 無雑作に

私の日頃の百の感情……

(昭和十三年「山桜」九月号)